

第19回むつ市総合教育会議議事録

開催日時： 令和3年12月14日（18：00～19：40）

開催場所： むつ市役所 教育委員会会議室

出席者： 阿部 謙 一 教育長
田中 志 昌 教育委員
納谷 順 子 教育委員
黒木 和 之 教育委員
川西 伸 二 副市長(オブザーバー)

事務局 教育委員会 角 本 教育部長
鷺 岳 政策推進監
工 藤 教育委員会総務課長
祐 川 副理事(学校教育課長)
櫻 井 副理事(図書館長)
畑 山 生涯学習課長
木 村 中央公民館長
金 浜 川内公民館長
二本柳 大畑公民館長
山 崎 脇野沢公民館長
新 田 総務課主幹
庵 原 総務課主査
高 島 生涯学習課主査
関 総務課主任

1. 開会

事務局： ただ今から、第19回むつ市総合教育会議、教育講演会、佐々木喜一氏講演会を開始いたします。

本日は、市民の皆様と御一緒に講演会を視聴していただくため、この模様はYouTubeでライブ配信をさせていただいております。

また、講師の佐々木喜一様には、オンラインにてご出演いただいております。

事務局： 出席者紹介
(教育長ほか)

事務局： それでは、講演に移らせていただきます。

本日の講師であります、佐々木喜一氏をご紹介します。本日の講師であります、佐々木喜一(よしかず)氏をご紹介します。

佐々木先生は、1958年、京都市にお生まれになり、同志社大学文学部卒業後、1987年、29歳で進学塾成基(せいき)学園の第二代理事長に就任されました。当時5教場の学習塾から、幼児教育、個別教育、国際教育、小中高受験教育、大学生支援教育、社会人・父母コーチング教育等の総合教育機関として発展させ、現在、成基コミュニティグループの代表兼CEOの職に就かれております。

2005年から2010年にかけては、社団法人日本青少年育成協会会長を歴任し、教職員、保護者を対象に教育コーチングの啓蒙普及に努めました。

2013年1月より、当時の安倍首相直属の諮問機関「教育再生実行会議」の有識者委員15名のひとりに選ばれ、様々な教育改革に携わってこられました。

2014年には、一般社団法人志教育プロジェクト副理事長に就任。

2020年11月、「ロッキー佐々木」とし

てユーチューバーデビューをされ、御活躍されております。

本日は、「志共育がむつ市・日本を救う!」との演題でご講演いただきます。

それでは、佐々木先生よろしく申し上げます。

2. 講演

1時間志について依頼されていますので、お話しさせていただきます。

冒頭紹介いただきましたが、2013年の1月より2021年の9月まで、総理直轄の諮問委員で、教育再生実行会議の委員を務めまして、この中で、2013年はいじめ、体罰の法制化とか、第2回目は、教区委員会の抜本改革、第3回目大学のガバナンス対策や大学のグローバル化、大学生の鍛え方、第4次に高大連携並びに大学入試改革等、今年(2021年)の8月末までで12回の提言をまとめさせて、総理に提言させていただきました。その中で、十分にやれたと思うことと、まだまだ道半ばというものがございます。それほど教育というものは、課題もありますし、より理想を持てば多くのやるべきものがあるんだと思っております。

12月15日、明日ですか、東京の方に行きまして、自民党の元文部科学大臣の下村博文氏の音頭で、超党派で、立憲民主党や公明党や日本維新の会や国民民主党等国会議員が120名集いまして、民間の方からも、特に教育に様々な知見をお持ちの方、民間人で教育立国に関しての超党派の議連が1回目立ち上がります。

私もお声がけいただいて、様々な教育関係者にもお声がけいただいて、極論を言うと、目指すべきところは、教育の無償化で、場合によっては憲法改正で恒久的な財源として謳うところまでの意気込みで、教育無償化することで、そこに反対する政党や国民は

いないかと思うんです。そういうところからまとめ上げて、来年の5月には政府に提出しようと言うような動きも、今させていただいております。十分な内容が話しできるかわかりませんが、1時間という時間を精一杯お話しさせていただきたいと思います。

私のことは、事前の資料がございますが、特に公教育に関したところで行きますと、やはり教育コーチングですね。これは25年以上も前ですけど、文科省の方の国立教育政策研究所、そこから全国100万人の先生の内、1万人がうつ病等により教壇に立てない。先生方に評判が良かったのがコーチングと管理職の校長や教頭達でしょうね。マネジメント研修。これが良かったんだけど、コーチングについての知見を文科省で持っていないんで、「佐々木さんそういうのをずっとやっているみたいなんで、ちょっと協力してくれないか。」と言われ、2年間東京に行って、学校の先生におけるコーチングについて、資料を作ってまとめさせていただきました。そんな関係もあって、現在37都道府県で教職員の研修とか、また、先生だけではなく、子どもに対しての影響は、保護者の方でしたね。

失礼なことを言うと、親になるのに国家試験入りませんよね。車で行ったら、無免許運転で運転していて、道路で人を引いてみたり、けがさせたり、車は自損で、ぶつかったりして、方々事故がありますよね。今、まさに、親がどういう親であるかということ、子ども自体選択できないので、親の教育も大事だと思って。そういった保護者相手の子どものコーチングという研修をやったり、講演会をやったりしています。

山口県では教員の免許の更新の研修にも導入させていただいております。

これは京都府で一番生活困窮家庭の多いのが八幡市でありまして、八幡市からプロポーザルで事業を受けました。どういう内容かと言いますと、閉校した学校を使って、夜、塾

に行くお金がない人たち、子ども達に我々教育委員会主催で学習をする。シンプルで、お金がないから塾に行けない。じゃ、教育委員会でお金の心配をせずに勉強をしてみたら。

5年間で、第1志望の合格率が94%になりましたし、大学進学に関してとなりますと、生活困窮家庭で大学進学率は2割くらいと言われてはいるんですけど、4大には70%、専門学校とか短大を入れると高等教育には91%が進学をしまして、これにはさすがに市長もびっくりしていました。生活困窮家庭で、生活保護家庭で、お金をもらう側から、払う側になるんだよねと喜んでいました。全国1,800自治体の様々なモデルケースの中で、ベストプラクティスで3か所選ばれました。八幡市も厚生労働省のそういうのに選ばれています。文科省も文部科学大臣も、超党派の議連の先生達も、是非八幡市を見学に行きたいなど、下村さんからいただいております。

通信制の高校についても、山口県の学校とタイアップしており、公立の通信制高校、大学進学率10%、私立で19%ですけど、61%となっています。

この大きな違いは何かというと、我々は志供育だったり教育コーチングをしています。教育委員の皆様もご存じのとおり、2030年までSDGsがありますよね。そこで、高校生にもわかりやすいように冊子を作り、17の項目でどれがなくなると、解決できると良いですか。と宿題を出し、例えば貧困が解決すれば良いとか、環境問題解決すれば良いとか子ども達が答えてくれます。じゃ、そういうことを大学で学ぶとすれば、どんな学部が最も課題を解決できるだろうかというところを調べたりし、偏差値がこうだから、この大学に行きなさいとか、受かるよとかいう進路指導はしていません。

子ども達が何のために勉強するのかという目的、自分の人生で解決したいと思っているような、そこから解決するために大学で学ぶ

ということなので、高校中退した子ども達は、コミュニケーションスキルとか人との関係性を突くというのが苦手な子が多いが、みんなそれぞれの志を持って頑張る仲間だと思って、このような結果を作ったりしています。

(療育学校、日本語学校の紹介。)

教育再生実行会議は官邸で、総理を含めて17人のメンバーがいます。

メンバーは私を除いては、知事が3人ほどいたり、座長は早稲田大学総長の鎌田さんだったり、民間で入っているのはアフラックの創業者、三菱重工業の方とか、塾では私が初めてです。

21世紀の生き抜く11のスキルというのは、第7次で提言で話し合いされました。いくら、知識をもってセンター試験を答えたとしても、それがどれだけ役に立つのか、多くの人が疑問にもっています。必要なのは、例えば、主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ、創造性など。正解のない世界をたくましく生きるには非認知型スキル、このようなものが必要だということです。

提言書の中で、志は大事と言われたが、志という言葉は200回近く言われています。これは、私がピックアップしました。何でピックアップしたかということ、文部科学省が志を削って、目標、自信、夢という言葉に置き換えていく。何で置き換えるのか疑問に思い、おかしいでしょ、戦後の教育で最も欠けているのは何かということ、夢は語るけど、夢は自分のためですよね。志は世のため人のため、利他心とか道徳心とか行っても良いです。それを戦後の公教育では中々やれなくなった。

有識者の山内委員は、第3次提言の大学のガバナンスの時に、志を教えない、知識詰め込む教育ばかりだとダメだ。日本の将来大変になるとの提言があり、これを皮切りに委員各自のテーマ毎に志を発言し、提言書、議事録、答申案には196か所の記載があった。

第2次提言で、教育委員会の抜本改革とい

うのがありまして、首長が教育長を任免罷免できると、法改正し、その中で、総合教育会議などの、首長が教育委員会の皆さんと一緒に地元の教育について話し合いの場を設けましょうと。その中で供育大綱というのが作られましたが、2年前に調べたところ、369の自治体に志の議事録があるんです。熱心な教育委員会の方ほど読みますから、志って大事だよねとなり、むつ市も含まれている。

日本の教育の課題について、皆様方も重々ご存じかと思いますが、簡単に言っておきます。いじめは6年間で40万件以上増加。きっちり報告されている裏返しとっています。不登校は小中で6年間で5万人増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響が入っていますので、児童生徒数が減っているにもかかわらず、増えて行っているのが現状下と思います。

児童虐待は20年で23倍に増加しています。

厚労省の事業で、引きこもりの人たちの若者自立塾というのを10年ほど前に3年間実施したことがありまして、急に引きこもりになるわけではなく、小学中学高校でいじめにあっているし、場合によっては幼児虐待、親から虐待を受けて、人と話が出来ない。幼児が一番信頼する親から虐待や暴行を受けたら、それ以外の人って信じられませんか。怖くて。件数が増えているというのは、やはり親の虐待に関しても、法改正して厳罰化していく必要があるのではないかと思うくらい子ども達への虐待が増えていると。20年で23倍ですから。すさまじいことだと思います。

引きこもり人数は15～39歳で54万人、40～64歳で61万人の合計115万に上る。京都市の人口は140万人くらいです。この数字は、千葉市の人口に匹敵し、一つの都市が機能停止する位、引きこもりがあります。

引きこもっている人で、自分は前向きで明るくて、良いよと思っている人は、ほとんどいないと思います。意識調査において、自分はダメな人間だと思う問いに、日本の高校生は65.8%自分はダメだと思っている。数字で他国に比べ高い結果が出た。次に、親や先生を尊敬しているか、の問いには、64.1%と、国別に見て、いかに日本人の子どもたちがダメな人間だと思っているかがわかる。

教育再生実行会議に2か月間通って、この表（自分はダメな人間だと思いますかの国別集計表）について、意見を出し合い、最後は褒めまじょうとなってしまう。しかし私は、29歳の時まで、父が亡くなるまで一度も褒められたことはなかったが、それでもここまでやってこられた。人間には崇高な思いがある。そこから見たら、まだまだダメなんだ。一神教の神から見たら、人間は下部みたいな存在だが、日本の元々のベースにあるのは神道であるから、人さえも全てが神を持っている。そこから見たらまだまだダメなんだという事である。データだけ見て、他国と比べて高校生ダメだから褒めよ褒めよというのはどうかと思う。

次の親や先生を尊敬しているかという、日本は、世界から見てみると、64%ですから、これは、子どもなりに親や先生を見て、後ろ姿を見ている。これは真摯に受け止めなければならない。親や先生がちゃんときちりとやっていたら子ども達もぶれようとはしないし、一生懸命子どもなりにやってくれと思っています。

熱意のある社員の割合は6%のみという数字で、調査した139か国中132位と最下位クラスであった。この数字を見ると、日本人の勤勉というイメージは過去のものと言える。

総理官邸で、働き方改革の時に、総理、働き方改革をしている場合じゃないですよ。日本人が勤勉と言われたのは過去のもの。熱意

がある社員が6%という調査国139か国中132位。最下位クラスでした。無気力な社員24%、やる気のない社員70%です。

このことを、教員に置き換えてください。当てはめてもおかしくないですよ。学校休校していても、給与、ボーナスカットになった教員いないでしょ。この夏だって自宅にパソコン一人一台4,900億円の税金使って小中学生に端末機渡したけれど、夏休み自宅に持ち帰らせていない自治体は半分以上です。8月末に、官邸の会議で、コロナで学校休校になったら自宅でオンラインで授業受けられる体制、半分以上の自治体は受けられない。

総理がその晩の記者会見で、休校措置は地域で違うが、オンライン授業するよう要請しますとコメントしていました。

全ての先生がやる気がないとは言いませんが、やってもやらなくても何とか生きていけると。塾だったら、コロナで授業無かったら授業料もらえませんか潰れてしまいます。我々は去年の4月の段階で1万家庭以上オンラインでズームで結びました。分からないという家庭には、出向いて教え、パソコンない家庭のため500台を無料で貸したりしました。これが民間と公の違いだと思います。

私は、塾が反映したら良いと思って塾はやっていません。塾がなくなるような日本の教育界になるようにやっています。公教育が残念ながらあまりにもぼんやりとしているので、我が子のことを思うからこそ、食べたいもの、着たいものを着ずに高い授業料を払って来ていただいているのが現状ですから。公教育が塾に行かなくてもいいようにするのが理想型と思いますが。

逆に、そんなことがあり得るだろうかと思ったらバンチャー制度を導入して、学校だから独占するというのを止めたらどうかなと思っています。アメリカ、スウェーデン、イギリスなどでは、バンチャー制度を導入して、年間一人当たり150万円税金投入していま

す。チケットを親に渡して、どこの学校に行くかは、親が子どもが決めることで、のんびりしていたら、生徒が来ないですから、教員の給与すら払えなくなるということは、スウェーデンで実験的にやって大成功しています。日本は、それはまだまだ出来ていないのが課題です。民間でもこれですから。公になったらもっと教員の世界というのは、ぬるま湯に浸りきっていると。厳しいことをあえて教育委員の皆さん方にはお伝えさせていただいております。

人口減少はご覧のとおりです。

人工知能AIの発達により、2045年頃には人工知能が人類を超える現象シンギュラリティが起こると予想される。

2030年以降に姿を消す職業です。様々なところで仕事が変わっていくと。総論的にいうと、2011年に小学生だった子らの大学卒業後の職業は、今は存在しない職業に65%の人が就くだろうと予想されます。今後10～20年後には、労働者の49%がロボットやコンピュータにAIに置き換わるという風に言われています。

そういう中で、人間は何を身につけなければならぬか。先ほど11のスキルと言いましたけれど、その中の一つである志についてお話しします。

(映像視聴)

夢というのは、自分のため。例えばスーパーカーに乗りたい。これ夢ですよね。志になったらどうなるのか。スーパーカーに乗って多くの子ども達に感動する心を伝えたい。といたら志になる。勉強の目的だって、成績上げるとか、志望校に入る為に勉強するという子ども達が、中学3年生でも、ほぼ全員じゃないですか。じゃ、学校に受かったら勉強しないのか。そんなことはない。じゃ、何のため？。将来のため。じゃ、どんな将来？と聞いたら9割の子どもはぼかんとしている。

SDGs。世界を変える17の項目。名目、

目標。今の小中高校生にとったら一番将来大人になるとき重要ですね。

世界の人口76億人ですけど、毎年人口が1億人ずつ増えている。あつという間に100億人になるでしょう。地球は持つのか。アメリカ並みの生活をする、地球が6個ほどいると言われていて。日本並みの生活をする、1.7個ほど必要と言われていて。発展途上でエネルギーを使わない、貧困というところで、膨大な消費を出来ないから何とか持っている。豊かになればなるほど、様々な課題を持つことも事実です。持続可能なサステナブルな地球に人類になるために、生きとし生ける全ての生き物にとっても持続可能な生存をしていく中、何のために勉強するのかというときに、もちろん目の前の成績上げたいとか、志望校に合格するという事は大事なことでありますが、ずっと先に世の中、日本や世界は地球はどうなるんだ。そこに、今の子ども達は直面するわけですから、じゃ、その中で自分はそんなことをやる、あんなことをやろう。そのためにこんな勉強しようという風に紐付いていいたら、勉強に対する取り組み方が違ってくるんです。我々の塾では全て子ども達にそのような指導をやっていきます。

高校生の映像を見てもらいます。

(映像視聴)

今の子は高校生です。青少年志プレゼンテーション大会というのがありまして、あいにくのコロナ禍でZoomで行いましたが、審査員から一番高い得点をいただきました。

様々なイベントを子どもたちのためにやったという事が評価されたと思います。

これは、公立学校に民間教育を、社会に役立つ志・発表ということで、埼玉県吉川市で市を挙げて実施した記事です。公の所にも志共育、利他の精神世のため、人のため、エゴ、煩惱と言ってもいいし、そういう教育から世のため、人のためという教育をはじめて

います。

どんなテキストを使用しているかという、漫画家の松本零士先生、脚本家の小山高生先生に依頼して作成。

世界で民族とか宗教とか性別を問わず愛されている漫画を利用しています。何万人の子どもたちが志を立てる事は難しいですが、非常に分かりやすく、簡単に立てられるように作ってあります。手前味噌ですけど、優れものです。

公立の学校、横浜市の学校では、全校生徒 570 人に、当時の校長が実行し、市の教育委員会から優秀教育実践校として表彰されています。それ以外の学校にも広がり、全国の公立学校 13 校で実施されています。

また、私立学校でも導入されました。この学校はトップ校ではないんです。中学受験にして第 3、第 4 志望校で、いやいや行くかという学校です。2020 年に志入試を実施しました。5 教科のペーパーテストよりも面接で志を述べてもらう。やる気があるんだったら学校で力伸ばすよ。再募集しても定員に達していなかったのが、定員の何倍もの生徒達が集まってきた。校長先生がうれしいことは、子どもたちが意欲を持って学校を選んできている。前向きなので、やりやすいと。2022 年度は、高校入試で志自己推薦入試の導入、32 名の教師が志共育認定講師資格を取得している。各クラスで、各生徒に、一人一人の志を引き出す授業をやっています。先生向けのテキストも用意しております。

志共育を導入前と導入後の比較で、明確になったと答えた割合が 5% から 32% へ増え、まあまあ明確と答えた方は 26% から 56% へ増え、何のために生きて行くのかとか、何のために勉強するのかという、目標や目的が明確になったという違いが出ています。

最後に、私の志を述べさせていただきます。

「地球を救う為に世界の人から尊敬、信頼、愛される日本人[ひと]創りに己のすべてを捧

げる！！」

私は 63 歳ですけど、この 10 年で全国 100 万人の小学生中学生高校生に、それぞれにぴったりの志の 1 文を作ってもらって、日本を再生し、社会の平和に貢献できるような状況を作りたいというのが、私の最後の志事です。

むつ市の子ども達・若者一人一人が、世界でたった一つの自分だけの「志の一文」を持つことで、そのことが大きな成長、教育的成果に結びつきます。

そうした志高い人達がむつ市を活性化し、仮に市外に出ても、ふるさとを心に持ち続けながら活躍してくれると思って、本日の講演を終わります。

3. ディスカッション

事務局：引き続き、ディスカッションに入ります。

ただいま講演をいただきました、佐々木喜一様にも同席いただき、委員の皆様からの質疑等にお答えをお願いいたします。

それでは、各委員から、講演を聴いての感想や質疑をお願いします。

田中委員：志すとは、何かを目指すことと理解しています。

講演の中で、貧しい家庭の子ども達が、廃校を利用した塾で学習し、進学率を上げ、目的を達成したという話がありました。

発展途上国の子どもたちが、テレビ番組のインタビューで、何になりたいと聞くと半分がお医者さんとか人を助けたいということと言う。あれを見ていると、厳しい環境の中だと志というのが高くなる。それに対して、教育の無償化とか、今学校は子どもの数に比べても大学の数が非常に多く、進学するのに苦勞しない環境の中で、逆に志というものを持

ちづらくなっている気がする。昔、私たちが大学に入ったとき大学少なかったので、競争倍率が高かった。家庭環境、社会環境の中で、志の持ち方というものを先生なりに考えておられたら、具体的な例も交えて教えていただければ。

佐々木氏： 能力別クラス編成をしています。低学力では個別指導となり、1：2の割合で実施しています。3クラス用意しています。中学生でも小学生の学力が身につけていなければ戻って学習することもあります。

塾なんですけど、授業前に必ず合唱、黙想を実施しています。これは、税金が投入され、お父さんお母さんが働いて、子どもたちが何のために学んでいるかをきっちりと言います。

当初は、床に寝転んでいる子どもがいっぱいいました。厳しくも指導しながら、これは一人一人の表現なので、対話しながら、どういう所に課題や問題を持っているのか。でも、これ強制的に来たわけではなく、子どもの中でなんかやりたい、実現したい事があって来ているので、一人一人の子どもたちと向き合っ、コーチングしながら授業を受ける目的・目標を立てて適切な指導を行う。

教育委員会主催のスタディサポートなんですけど、授業参観を案内するが、教育委員会は見に来るが、6年間で学校の先生は一度も見に来ない。事業がいつまでつづくか分からない。我々も一線級の先生を出しています。それ見て、学校の先生が、ここまでやっているのかと。この事業がいつまでつづくか分からないから。なくなったら、八幡市の学力が京都府で最下位から中間に上がったと教育長から受けました。我々がやっているのもそこまでするまで上がっているの、我々が手放して今のような学校のぬるま湯の先生に渡したら、学力がまた京都府で下位になる可能性もあるので。そんなことは望んでいないので、我々がいなくなっても先生達がきっちりやってくれと言

ってはいらるんですが、強制は出来ない。先生達が志を持って子どもたちを何とかしようという気持ちがあるので、それに応えて子どもたちが応えて一生懸命勉強していることじゃないかと思います。

納谷委員： 保護者の立場で親という観点からもお話しさせていただきます。

学校でもSDGsの学習が盛んにやっており、班に分かれて興味を持ったものに対して取り込んで勉強して、これに対してどうしていこうかという学習をしていると聞いています。こういう学習をすることで、長丁場な目標なので、子どもたちが大人になっていく過程での目標となるので、夢や志につなげて、どうしていけば良いのか考える学習をしていると聞いています。

ただ、家庭で、親が子どもに志がこうだから、このようにやっ、ていこうかという話はやっていない自分を反省しています。学校も家庭も今日からもう一度、自分自身の考えを改めて、子どもが志を自然に持てるような教育を学校や自分たちが出来たら良いなと感じました。

佐々木氏： SDGsの取り組みは素晴らしいです。

志に正解はありません。一人一人の中にある崇高な想いで必ずあります。それを引き出す技術は要るが、漫画テキストを参考にしてください。小学校の4年生以上が分かるようになっている。親子で出来るワークが付いていますので、ご家庭でも出来ます。

黒木委員： 志という話をずっと聞いて、肉体的にも精神的にも厳しいという状況になったとき、面白いからとか、好きだとか、給料のためとかじゃなくて、やっぱり大義がないと乗り越えられなかった。大義と志は同じと勝手に解釈している。ギリギリのところであつらいこと

を乗り越えたりするには、志とか大義とかがあるということを実感しているので、おっしゃることごもつとも拝聴させていただきました。

今日、分からないとか疑問に思うことは、志を指導するというのは、侍の家庭、武士の家庭で師弟に対して行った教育だったと思うんですが、志教育というみたいなものが、果たして、公教育は義務教育となっていますが、様々な家庭のお子さん達に広まるのかという疑問が一つあるのと、どれ位の年齢からいけるものなのか。先ほど4年生くらいからというお話があったんですけど。先生に聞くのは失礼ですが、ダークサイドはないのか。副作用とか、副反応とかはないのか気になった。私自身、面白く楽しく、面白がれるようになろうという話を自分の接触する子どもにはしているんですが、果たして志というものを植え付けていくには、どれ位の年齢から、そして選べるのか、そしてダークサイドはないのかというあたりをうかがいたいと思います。

佐々木氏： 大義とは多くの人の志の集合体だと思います。自分のため、家族のために頑張れると思いますけど、より多くの仲間や取引先や地域社会、ステークホルダーのためになると、よし、しんどいけど頑張ろうと思えるわけです。

あと、全ての人にといいところですが、「志」という文字を最初に考えたのは聖徳太子である。この時代から志という言葉はあります。奈良時代には立志教育がありました。教育を受けたのは、様々な人が受けたわけではなく、ある程度の侍とか貴族とかある一定の階層の人たちが、立志教育、武士の世界でいったら元服の義ですよ。14歳ですよ。今まで育ててもらったことに感謝をしながら、私の人生、こうやって生きていきますよという宣言を14歳になれば、多くの日本人は行っていた。これは日本精神そのものです。世のた

め人のためというのは。それを戦後、GHQの指導下で教育委員会を作り、国からの直轄的な指揮命令が軍国教育になったことから、アメリカからすれば、志のある人が、野心というものをとったら、ダークサイドの世界に行きますから、すごい力を持ちますので、2度と日本とは戦いたくないし、戦えないような国にしよう。大和魂だってそうですし、元気の「気」は米と書いていたが今は、「メ」と書替えるように。いろんなところで、戦後の教育体制が弱体化する方向性になりました。

神話のない国は滅ぶと言われますが、古事記を筆頭にどうやって国が出来たのか。世界の中で愛国心を教えない国はないくらいです。日本で愛国といたら、まるで右翼でとんでもないことをすると。国を愛するから他国を攻めてしまうと。過去にやっただろうみたいな、間違った思想と思っています。自分を愛するから、人も愛する。自分を大事に出来ない、愛せない人が人を愛したり、人を大事に出来ない。同じように、自分の国が、尊い国だから、他国も尊いということが、世界平和となると思いますから、戦前の教育でいえば、明治以降の教育制度が整う中で、当たり前のように立志教育やっていました。今も、いろんな都道府県で立志教育はやっています。どんなことをやっているかといえば、残念ながら、ほぼ100%親への感謝の手紙です。自分はこれから何で身を立てていくか、どんな生き方をしていくかということは立志教育では指導できない。志に正しい答えはない。志は植え付けるものではない。あるものを引き出すものです。そこが大きな違いです。志がこうだから、おまえの志はこうだと声高に叫んでおまえの志はこうではなくて、それぞれにあるものを引き出す。そこはコーチング的なものかと思います。

副作用があるとするならば、目標や目的が曖昧だったら、そんなに自分を責めなくても良いかもしれません。でも、明確になってい

るのに、それをやらない自分がいたら、人は騙せても自分は騙せないから、自分はダメだよねというのが明確にならざるを得ない。そこが、副作用的な所かもしてない。それさえも作ったら終わりじゃないですから、やっぱり先生や周りがどうなの？とか聞いたり、真面目な子ほど自分を責めるから、クリアリング、メンテナンスする、それをコーチング、カウンセリングしながら、やっぱり引き上げていくと。例えば、何歳からという話がありました、小学校3年生の子が将来僕はウルトラマンになる。おおそうか。良いと思うんですよ。で、中学生になって僕の将来はウルトラマンになりますって言ったら、笑い話になって、病院行こうかってなります。中学生になったら看護師になると。どうして？。テレビ見て看護師格好良いと思った。それでOKだと思う。たとえクラスで成績が低くても。看護師になってくれよと言う。高校生になったときに、調べていたら、とても看護師になるのは大変ということがわかり、じゃ、自分は何が出来るかと考えたときに、ウルトラマンでもない、看護師でもない、共通しているのは、人を助けるとか、正義を守るとか。だったら自分は消防士になろうと思って消防士になれば良いので、職業に規制はなく、何でも良いわけです。根っこに流れているもの、その子のらしさ、そこは正義感とか人を助けたいとか、そこが根っこにあれば、どんな初職業に就こうが、何でもOKだと思っています。なんかになることが目的ではないですから。どんな生き方をするのか。Beingです。Doingじゃなくて。どんなやり方をするのか。これは道の世界です。これこそが日本精神だし、東洋の英知だと思うんです。

今、Well-beingとかが文部科学省なんか見だしています。GDPで順位付けをするところから、心の幸福度指数GDWなんかも言われています。これから一人一人がどう幸せになるか。究極に幸福は、どれだ

けの多くの人を幸福にすることが出来たかだと思しますので、自分と他人の心と体の健康、幸福をこれからの日本が求めていく世界ではないかと思っています。

川西副市長： これまでの教育委員のお話の中で、SDGsの関係からでも、社会で生きていくための志というのは必要なんだろうとか、志は持たせるとかではなく、持っているものを引き出すということを聞かせていただきました。

それで、伺いたいのは、教育の諸課題のところで、自分に自信が持てない、親や先生を尊敬していない、今の日本人は勤勉ではなく、過去のものというお話がありましたが、これと志のとの関係はあるのかということ。諸外国に比べ低いということがありますが、そこは志の問題なのか。その辺をお伺いします。

佐々木氏： 志を持ったら、親や先生を尊敬できるかという相関関係は無いと思う。逆に言えば、志持てば持つほど、どうしようもない親や先生は尊敬できなくなる可能性はあると思います。

志と相関関係が一番あるとすれば、学校の現場であれば、いじめがある。志を持っていたら、いじめがあつたら止める行為、言い分を聞く。志を持っているから人をいじめるといふのはあり得ない世界だと思います。

自信を持てるかどうかということは、志として生きていけば自信が持てますが、志を作ったのに、そのように生きていないということであれば、新たに自分を責めるということですから、自信という言葉は自らを信ずることです。自分との約束を守れるかどうか。人は分からなくても自分は知っていますから。やっていないとか嘘をついているとか適当にしているか。そんな自分だったら自信を、自分を信じられなくなりますから、志がなかったとしても自分の決めたことや人との約束や

ルール、これを守ろうと思ったら、そのことをやって行くことが自己肯定感を高めることだし、自分自身を信じて自信を持てることだと思います。

阿部教育長： 教師生活を長くやっておりましたことから、佐々木様の講演にはうなずける、力を与えられる、そういう風に思っておりました。

子どもたちは、みんなのために頑張れる、みんなのためになるなら頑張れる。そういうお話をされたとき、子どもたちの姿を思い浮かべながら聞いていました。

授業する側でも大事なものは、教材や指導方法ではなく、子どもたちの興味、関心、意欲が全てだと思っております。そうした意味で、今日の講演内容は納得出来るものでありました。

与えられた目標から自ら求める目標にならないといけないし、そうした目標が目的につながっていかねばならないと思っております。

色んな表現があると思いますが、社会的自立の基礎作りが目的だと思っております。自分のために、人に社会に必要とされるそんな思いが絶対必要だと考えてきました。

教師の願いは、卒業した後も一生自分の意志を持って充実感を持って生きていくことと考えています。講演で聴いたことを力にして、実現に向かって努めたいと思います。

佐々木氏： 阿部教育長なら、むつ市に住む保護者も、先生達も、子ども達も、地域の人たちも絶大なる信頼を持って邁進いただけるし、自分たちも協力していこうと思うんじゃないかと感じました。

事務局： ディスカッション最後となります。佐々木先生からあいさつをいただいて終わりたいと思います。佐々木先生お願いします。

佐々木氏： こういう機会をいただいたことに、むつ市長、副市長、むつ市教育委員会の皆様に御礼申し上げます。

私本音で、場合によっては、Zoomで言うてはいけないこと、YouTubeでは削除しなければならないことも熱血漢に甘えて言ってしまうことがございますので、言葉足らずや不適切な発言が多々あったかと思っておりますが、そのことを申し訳なく、ご容赦願います。

子ども達に対しての熱い思いだけは誰にも負けない思いを持っています。

来年志を全国100万人の子ども達に志供育を広げるために全国行脚を行う事を決意している。その節は、むつ市にも是非お邪魔してむつ市の子ども達の未来について、語りあえればと思っている。

副市長、教育長、教育委員の方々がこんな素晴らしいみんなが揃っているのは、私の近隣の所ではなかなかないと気がして、うれしく思っております。

日本のこれからは、中々捨てたもんじゃ無いと思って、10年間かけて全国各地をめぐり、最後のご奉公しようと思っております。

むつ市のご繁栄を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

事務局： 佐々木先生大変ありがとうございました。

これで、ディスカッションを終了させていただきます。

これを持ちまして第19回むつ市総合教育会議を終了させていただきます。なお、本日の協議内容経過については、要点をまとめたうえむつ市公式ホームページ公表することといたしますのでご了承願います。本日は皆様ありがとうございました。

